

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植水中】

学力向上
アクションマップ

①

今年度の目標と学力向上策

重点的に育成する
資質・能力

・主体的に学習に取り組む資質・能力
・自らの課題を把握し、その改善に向けて自身の学習を調整する資質・能力

↓

実施する学力向上策
【時期・頻度】

・自身の学習習慣について、振り返る時間の設定(5月中旬・2学期末)
・自分の考えを表現する場面の設定(授業時)
・他人の意見に触れる場面の設定(授業時)

⑤

年度末評価

学力向上策の
実施状況

評価(※)

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

↓

今年度の成果と
次年度の課題

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④

さいたま市学習状況調査結果の分析

特徴的な結果

↓

結果から考えられる
児童生徒の実態

①学校全体での取組
②単元テスト・定期テスト
等の分析・活用
③中間評価を経ての取組
④調査結果を活用した授業

③

中間評価

学力向上策の
実施状況

評価(※)

B

・学習習慣を振り返ることができた。
・自分の考えをタブレットで共有しやすくするために、タブレット接続のためのケーブルを設置するなど環境整備に努めた。その結果、生徒が自分の考えを表現し、全体で共有する場面が増えた。
・他人の意見に触れたり、問題の解法を教えあう時間を設けた。その結果、生徒が目の問いに対して様々なアプローチで解決を試みる姿が見られるようになってきている。

変更なし

学力向上策の
見直し

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②

全国学力・学習状況調査結果の分析

特徴的な結果

国語では「書くこと」について、市や全国の値を大きく上回っていた。「読むこと」については、市や全国の値を下回っていた。今後、文章の校正や展開について捉えていくことを目指した工夫ある授業展開を考える必要があるのではと考える。
数学では「データの活用」が市や全国の値を大きく上回っていた。

↓

結果から考えられる
児童生徒の実態

「書くこと」に関しては、自分の体験や新聞、SNSなどから収集した記事をもとに、自分の考え、意見などを書く取り組み、さらに自分の考えを表現し、相互評価する取り組みを通して、自らの伝えたいことを明確にすることができた結果と思われる。「読むこと」に関しては様々な形式の文章を読み、なんとなく自分なりの感じ方を持つことはできて、論理の展開や物語の展開の仕方を正確に分析、把握することに苦手意識を持っていることが原因であろうと思われる。
「データの活用」に関しては、学習してからの方が目が見えやすいということもあり、正答率が高かったと考える。しかし、過去の学習の定着を図るようになれば、その他の単元においても市平均や全国平均を上回れるようになっていくと思われる。

ざらざら(楕円)

教育研究所